

第 2 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 運動・スポーツ部会 会議録

会議名	第 2 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 運動・スポーツ部会
事務局	地域のちから推進部生涯学習支援課
開催年月日	令和 7 年 8 月 26 日（火）
開催時間	13 時 55 分～15 時 41 分
開催場所	足立区生涯学習センター 5 階 研修室 1
出席者 （敬称略、順 不同）	溝口紀子（日本女子体育大学 教授）／伊藤のぶゆき（区議会議員）／田中ひろ子（公益財団法人足立区スポーツ協会 会長）／中村重男（区民（公募）） 大久保中央図書館長・3 分野連携担当課長／原田スポーツ振興課長／齋藤生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当／坪井スポーツ振興課振興係長／川内スポーツ振興課振興係主事
欠席者	木村潤平（パラリンピックトライアスロン選手（一般社団法人 Challenge Active Foundation 代表理事））／栢山猛（株式会社サンベルクスホールディングススポーツクラブ事業部 事業部長）
会議次第	別紙のとおり
資料	資料 1 第 1 回運動・スポーツ部会における主な意見及び今後の方針 資料 2 運動・スポーツ部会 評価集約結果 資料 3 足立区運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（案） 資料 4 区民アンケート 新旧対照表 資料 5 区民アンケート調査票（16 歳以上用）（案） 資料 6 区民アンケート調査票（小 5・中 1 用）（案）
その他	傍聴者なし

(審議経過)

■事務局（スポーツ振興課長）

それでは、ただいまから第 2 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会の運動・スポーツ部会を開催させていただきます。本日はお忙しい中本部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本部会の事務局を務めさせていただきますスポーツ振興課長の原田です。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、事務局といたしまして、同じく地域のちから推進部中央図書館長／3 分野連携担当課長を兼務しております大久保が同席しておりますので、よろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

大久保でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

■事務局（スポーツ振興課長）

初めに、4 点ご連絡させていただきます。

まず、本部会は、足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第 6 条第 2 項に基づき、過半数の部会員のご出席により成立になります。本日は木村委員と栢山委員の 2 名がご欠席となっておりますけれども、定員の 6 名に対して過半数の 4 名がご出席いただいておりますため、部会が成立していることをご報告させていただきます。

次に、本部会は条例で公開を原則としております。会議録につきましてはホームページ等で公開させていただきます。また、会議録を正確に作成させていただくために皆様のご発言を録音させていただきます。また、記録のため写真撮影をさせていただく場合がございますので、併せてご了承ください。

次第に入りましたら、ご発言の際には、最初にお名前をおっしゃっていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に、本日の資料につきましてご案内をさせていただきます。本日の資料につきましては、次第表面に記載させていただいております。配付資料 1「第 1 回運動・スポーツ部会における主な意見及び今後の方針」、資料 2「運動・スポーツ部会評価集約結果」、資料 3「足立区運動・スポーツ推進計画施策評価シート（案）」、資料 4「区民アンケート新旧対照表」、資料 5「区民アンケート調査票（16 歳以上用）（案）」、資料 6「区民アンケート調査票（小 5・中 1 用）（案）」でございます。順次ご説明させていただきますので、大変恐縮ですが、随时お手元にご用意いただきますようお願いいたします。また、閲覧用といたしまして、3 分野計画の冊子をお手元にご用意しておりますので、必要に応じてご参照ください。

それでは、ここからは溝口部会長に進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

1 第 1 回部会における主な意見及び今後の方針について

■溝口部会長

皆様、こんにちは。改めまして、暑い中ご参集いただきましてありがとうございます。本当に溶けそうなぐらいの暑さで、冷房の効きが悪いということで扇風機を回していただいているようなのですが、先ほどトイレで外に出たのですが、向こうの館のほうが涼しいみたい

で、暑い中の議論になりますけれども、お付き合いのほどどうぞよろしくお願いいたします。

先ほど事務局よりご説明があったように、本部会は 9 月に予定しています第 3 回の全体会に向けた最終的な意見調整の場となりますので、十分な議論を尽くしていただきたいと思います。

2 つ目です。もう一つは、現計画の評価と新計画のアンケート調査票の検討が主な議題となりますので、こちらのほうも具体的かつ実行的なご意見を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは早速、次第に沿って事務局から説明をお願いしたいと思います。

まず、次第の項番 1「第 1 回運動・スポーツ部会における主な意見及び今後の方針について」、事務局から説明をお願いします。

■事務局（スポーツ振興課長）

資料 1 のご用意をお願いいたします。こちらは第 1 回運動・スポーツ部会におけるご意見及び今後の方針でございます。こちらのほうで 2 点に集約させていただいております。

1 点目がアンケート調査及びデータ収集についてでございます。こちらは「イベント参加者などスポーツ意欲が高い層に偏ってしまっていて、結果が高く出る傾向があります。現場の実感と数字に乖離があり、運動習慣のない層へのアプローチが不足している」とご意見頂いております。

また「3 年に 1 回のアンケートでは意識変化を捉えにくいという懸念があります。また、情報発信評価に SNS アカウント数やフォロワー数も加えるべき」とご意見を頂いておりますので、今後の方針といたしましては、運動習慣のない層の方々については、従来のスポーツイベントには参加しない可能性が高いので、健康や地域活動とか、こちらの分野以外の分野と連携を図ることを検討していきたいと思います。

また、3 年に 1 回のアンケートとはなりますけれども、情報発信評価には SNS の指標を検討したいと思っております。

2 点目、施策の具体化と新規性の追求でございます。「これまでの計画は理念に終始しているところで、具体的な施策が「従来どおり」となっているものが多かった。「パークで筋トレ」などは素晴らしいが主に高齢者対象で、社会人・子ども層への具体的なアプローチとか新しい取組が見えてこない。総参加者は増えていても新規の参加者は期待どおりに増えていない。「今後の方向性」は漠然としており、より具体的な情報が必要である」というご意見を頂いております。

それを受けて今後の方針といたしましては、今回の評価を機に成果の乏しい施策は廃止・見直しを行う「スクラップ&ビルド」の視点を取り入れていきたいと思います。

また、社会人層とか子ども層とか多様な年代のニーズに応じた具体的施策を検討したいと思いますけれども、「見るスポーツ」、プロの観戦でしたり、「スポーツカーニバル」というスポーツ協会さんと一緒にやっているものでしたり、「ウォーキングチャレンジ」という糖尿病対策月間にやっているものですかいろいろあるのですが、その中でも「パークで筋トレ」につきましては、新規の参加者増加に向けて「あだち脳活ラボ」という福祉部のほうで始めた LINE のアプリと連動しているものがあるのですが、そちらと連携して異分野連携を積極的に活用したいと思っております。

以上でございます。

■溝口部会長

説明ありがとうございました。

2 運動・スポーツ分野の評価について

■溝口部会長

続きまして、次第の項番「2 運動・スポーツ推進計画の評価について」、事務局から説明をお願いいたします。

■事務局（スポーツ振興課長）

続きまして、運動・スポーツ推進計画の評価につきまして、資料 2 が評価の集約結果、皆さんからご評価いただいたものを資料にさせていただいたものと、資料 3 の施策評価シート、こちらについてご議論をしていただきたいと思います。こちらは部会長に中心に意見の調整とか集約とかをしていただければと思います。資料 2 につきましては、事前に頂いた評価・コメント記入シートを事務局と部会長と一緒に集約して整理させていただいたものになります。

資料 3 につきましては、資料 2 ですとかこれまでの議論を踏まえまして、部会長から特に 5 の「推進委員会の評価」につきまして、評価（案）という形で整理いただいているものでございます。本日は施策ごとに各委員の皆さんのご意見とか評価点の確認、また新しい提案等を論点といたしましてご意見の調整をお願いできればと思っております。恐縮ですけれども、事務局で時間管理とかとか意見の振り返り等をさせていただきたいとさせていただきたいと思っております。大変申し訳ないのですけども、本日は評価に加えてアンケートの調査項目もありますので、限られたお時間になると思うのですけども、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

■溝口部会長

ありがとうございます。事務局から以上のとおり評価の進め方についてご提案がございましたけれども、委員の皆様ご了承いただけますでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、ご異議がないようですので、資料 2 の評価集約結果及び資料 3 の施策評価シートを使用して各施策について意見交換を進めてまいりたいと思います。

早速、施策 1 からお願いしたいと思います。施策に当たり達成度とか点数があったと思うのですけども、四捨五入のところもあったり、細かい数値もありますので、その都度説明をしていきたいと思っております。意見のすり合わせというところで、いろいろ相反する意見もうまく事務局のほうでまとめていただきましたので、それも踏まえて皆様でご評価いただきたいと思います。ですが、何せ 3 人と今日は少ないので、中村さんから 1 項目ずつご意見を頂いて、そこで何か補足がある方がいらっしゃれば、ご意見を頂こうかなと思っております。

それでは、最初に施策 1 からお願いします。資料 2 の最初のところと、資料 3 のところになります。ご意見ありがとうございます。達成度評価は事務局としては 4、方向性 4、全体として 4 となっております。若干高いかなと思われているかもしれません。実際は達成度 3.75 でした。方向性としては四捨五入ということ聞いています。そういった形で、全体として見て 4 が適切ではないかという評価にしました。

読み上げますと、(1)の「現在の達成状況」への評価です。指標②の実績値が目標を上回っている点を高く評価する。「ウォーキングチャレンジ」や「パークで筋トレ」といった事業が区民に定着し、多くの事業で参加者がほぼ定員に達したことはコロナ 5 類移行による参加者の増加や、既存事業の見直しによる成果であると考えられます。

一方で、個別事業については課題も残っております。目標未達成の原因分析や新規参加者拡大に向けた具体的な策が不十分であったということです。また、活動指標に新規参加者の観点が欠落していたため、今後の事業運営の検証にはこの点の把握が不可欠であるということになりました。

2 番目の「今後の方向性」への評価につきましては、多様な年代や層に向けた活動定着には参加しやすさやモチベーション維持につながる企画の工夫・継続が求められます。特に「パークで筋トレ」のように PR に付加価値を持たせる重要性を指摘しています。今後はスポーツに関心がない人々を引きつけるため、スポーツを前面に出さない事業内容を工夫することや障がい者を一般イベントに呼び込みインクルーシブな取組を推進していく必要があるということでもとめました。

「助言の反映状況」については、外部評価を実施しないため空欄となります。

以上が施策 1-1 でございますが、中村さんからこの評価につきましてご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

■中村委員

今初めて見たのですけれども、私たちが出した現在の達成状況への評価、委員がたくさんいるのですけれども、それと「今後の方向性」への評価もそうなのですが、この中身をどのようにサマライズしてこっちに移っていったのか。要は施策評価シートの「現在の達成状況」への評価の内容と私たちが書いた内容がどうリンクされているのかというのが分からないのですね。全部読み込んでこっちと比較しなければいけないのですけれども、それができる時間もないですし、どこをどう総括に反映されたのかというのは説明していただけますか。

各委員が出した意見をサマライズして評価シートのほうに載せているのですけれども、どの意見をこっちに移ってきたのかという。ざっと見て事務局で作文しているとは思わないのですけれども、そこはちょっと説明をしていただきたいなというふうに思います。それは「現在の達成状況」もしかり、「今後の方向性」もしかりなのですが、よろしくお願いします。

■溝口部会長

ありがとうございます。私も目を通していただいたのですけれども、重複している部分だったり、同じ問題点は捉えられているのではないかとこのところ、委員の方々が重複しているところ、していないところ、そういったところも踏まえて総観的に書かれているかなと。いいことばかりというか、一方でというところだったり、課題とかも明記しているのではないかなと思っています。ここの空白の部分があるのだったら、もう少し記述を厚くしてもいいのではないかとこのところもあると思うのですけれども、私としては、皆様のご意見を読んで比較的コンパクトにまとめられたのではないかなと思います。

その一方で、先ほどの得点のところが 3.75 とか、「今後の方向性」のところは実際に 3.5 が平均値で、4 と言えるのかなというところでは、数値化のところでは客観的というか、4 と 3.5 ってなかなか微妙なところで、ここを 3 にしてみたらどうかなというのは比較的数値化するという意味では分かりやすいところかなと、可視化できるかなと思っています。

事務局のほうはいかがでしょう。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

溝口部会長のおっしゃるとおり、全ての委員さんのご意見をここに入れることは無理だったので、こちらの成果指標にの目を通して、同じ意見とかは集約して、そうではない意見は必要かどうかを判断してこちらのほうには記載をしました。なので、これから膨らますことも可能ですし、

こういった点がないというのであれば追加も可能でございますので、この場を借りてご意見等を頂戴できればと思っております。

■中村委員

ちなみに私、評価委員もやっております、評価委員はそれぞれ分科会がありまして、分科会長が有識者の方なのですね。その有識者の方が、それぞれの意見を全て取りまとめていただいてフィードバックして「これでいいですね」と確認をして評価をつくるという形になっているのですが、これですと、我々が出した意見を事務局で取りまとめて、それを部会長が見ていただいてという形なので、たずまいとしては、本来であれば部会長が全部見ていただいて、ここに部会長の案ということで出していただくのが筋ではないかなとは思いますが、その辺はいかがなんでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

中村委員がおっしゃることも我々は理解できます。実態といたしましては、こちらの評価委員会は、評価のコメントという形で従来こういった形で皆様から頂きまして、一旦事務局で取りまとめをさせていただいてきたというところでございます。本来であれば部会長が取りまとめるべきということについては、今この場で「そうします」ということもなかなか申し上げづらいのですが、今後の評価をどういうふうにしていくかというところで受け止めさせていただければと。実態といたしましては事務局のほうでやらせていただいておりますが、ただそこは部会長もおっしゃっていただきましたように、なるべく皆様の意見を網羅できるような形でまとめさせていただいておりますが、不足があるかと思っておりますので、その点につきましては追加のご意見を賜われればと思っております。申し訳ございません。

■中村委員

分かりました。次回の評価のときにはそういった視点で考えていただかないと、客観性とかそういうものが担保されるのかどうかという懸念もありますので、そこはぜひ考慮いただいて、よりよい評価をしていきたいと思っております。

■溝口部会長

ありがとうございます。中村委員、ほかに何かつけ加えとか、この評価の進め方以外で何かあるでしょうか。

■中村委員

「パークで筋トレ」は、「現在の達成状況」、「今後の方向性」でも出ているのですが、会場を増やせば延べ人数は増えてきますし、回数を増やせば延べ人数は増えていくので、そういうことではなくて、ここにも書いてありますけれども、新規をどうやって増やしていくかというところがポイントですので、新規を増やすためにどういうことをしていくのか、その新規参加者数の管理をどういうふうにしていくのか。「あだち脳活ラボ」というように言われていますけれども、「脳活ラボ」の活用者って今どのぐらいいるのでしょうか。この間聞いたときは3,000とかと言っていたのですが、そういうレベルではない？

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

今 6,000 人を……。

■中村委員

6,000 人を超えましたか。どんどんそれを増やしていただいて、「パークで筋トレ」に参加されている方が「脳活ラボ」に全て登録しているとは限りませんので、そういうところも含め

て「脳活ラボ」の活用をどうして広めていくのかという観点からも、ぜひ検討いただきたいなと思います。

■溝口部会長

ありがとうございます。どうでしょう、新規参加者というところで言葉が……。

■中村委員

書いてありますけれども、では具体的にどうやって増やしていくのかというのは「今後の方向性」のところに、もう少し。

■溝口委員

そこをちょっと入れましょうか。新規参加者を図るために脳活ラボのほうとか、ほかの事業とリンクしてというか。

■中村委員

情報連携してからとか。

■溝口部会長

ちょっとその辺いいでしょうか。ほかの委員さんたちもよろしいでしょうか、田中委員。

そこをつけ加える形で。方向性が3.5のところは4となっていますけれども、これは4でいいですかね。

■田中委員

田中です。実は自分が書いた資料と、入力したものを今日持ってきて初めて見比べて、自分では記載が方向性は3になっているのです。すみません。でも入力のシートは4で入力しているのです。もしかしたら迷って最後に変えたのか、ちょっと覚えていないのですけれども、多分その辺のところで迷ったのだろーと思います。「今後の方向性」のところでは、どういうふうに新しい人たちを取り込むのかということがすごく大事になって、新しい人を取り込むって、すごく難しいではないですか。「パークで筋トレ」なんかも、地域によっては仲良かったり、仲悪かったりとかいろいろ聞く中で、先ほどから「脳活ラボ」が出ていたのですけれども、私もこの間、人に聞いて取り入れたのですけれども、自宅で自分が好きなところでできるというので、割と取り組みやすいなという感じはしました。ですから「脳活ラボ」との連携というのは、とてもいいなと感じました。

■溝口委員

ありがとうございます。どうでしょう。方向性は、期待値を込めてというか、伸び代があるというところで3にして、全体が3.5ですので4でもいいかもしれない。これを3にして、新規参加者を「今後の方向性」のところに取り入れるというところに加筆していただきたいと思います。

施策1-1は、これでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、施策1-2の「だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実」についてです。

こちらは現在の達成状況と評価です。プロスポーツとの連携強化や障がい者向けのアウトリーチ事業を通じて、区民がスポーツに触れる機会を創出できた点が特に高く評価できる。これにより、多くの住民がスポーツ活動に参加するきっかけが提供された。一部の個別事業では目標未達が見られ、その原因分析や具体的な改善策が不十分であった。また、施策の全体的な効果を測定するためのアンケート調査が実施されておらず客観的な評価が困難であった。今後は、事業の費

用対効果を意識した見直しや、効果測定 of の仕組みを整えることが求められるということになっています。

2 番目、「今後の方向性」への評価です。プロスポーツチームとの連携を具体化し、多様なコンテンツを創出していくことが重要である。また、世界陸上やデフリンピックなどの国際大会を契機とした独自企画を通じて、区のスポーツ気運をさらに高める必要がある。誰もが気軽にスポーツを楽しめるよう「ぶちスポーツ」のような取組を強化するとともに、スポーツ広場の活性化も図るべきであるということになります。

こちら外部評価を実施していないため、「助言の反映状況」への効果は空欄となります。

これにつきまして、田中委員、いかがでしょうか。このような評価をしました。ちなみに達成度は 4.0 で、方向性が実は 4 になっていますけれども、3.75 という平均値になります。

■田中委員

実は私は、方向性はここもすごく悩みました。3.5 なんていうのは入力するところにはなかったのですけれども、自分でメモには 3.5 ぐらいかなと書いてあるのですけれども。スポーツを見る機会というのはなかなかないので、近場でそういう体験ができるということではいいなと思ったのですけれども、「今後の方向性」というところでは、もう少し身近なアスリートとかをたくさん活用してほしいなという感じはいたしました。自分たちに近い感じの人、区民の中でそんなに特別に、オリンピックに出ていなくても有名で活躍している人をたくさん紹介する中で、自分たちが入りやすくというのがあるのかなと思ったので、いろいろなところでもうちょっとアプローチしてほしいと感じはいたしました。

■溝口部会長

ありがとうございます。身近なアスリートというと、地元ですよ。

■田中委員

そうです。

■溝口部会長

私、地方にいたので、テレビとか新聞の地方紙のほうが取り上げてもらえるみたいなのですけれども、東京都民の人って……

■田中委員

いっぱいいるから。

■溝口部会長

いっぱいいるから、なかなか上げてくれないという意味ではどうなんですかね。広報紙さんとかスポーツ協会さんとはどういような。

■田中委員

たまに広報紙とかには載っているのですけれども、「ああ、そうね」という感じでは捉えられますけれども、もうちょっとそういう人たちと一緒にイベントができたりとか、いろいろなことがあると、若い世代とか子どもとかは違うのかなという気はしています。

■溝口部会長

ありがとうございます。たくさん活躍する選手がいるから大変ですよ。

■田中委員

区内はそんなにはいません。

■事務局（スポーツ振興課長）

事務局です。イメージはあれですか、プロとかオリンピックには出ていないけれども、社会人とか可能性として。

■田中委員

もちろんオリンピックに出ていればいいですけども、オリンピックに出ているような人って数名ではないですか、現実には。

■事務局（スポーツ振興課長）

そうですね。総数がという話。

■田中委員

そうではなくても、全日本クラスで有名だったよみたいな人たちをうまく活用していくと、子どもたちって「ああいうふうになれるのかな」とか、そんな感じで取り組んでくれるのかなという感じはしました。

■溝口部会長

SNS とか広報紙とか、もっと積極的にスポットライトを当ててほしいというようなところですかね、区内で。ちなみに強化指定選手とかってあるのですか。足立区強化指定選手。

■田中委員

ないです。

■溝口部会長

私は袋井市のスポーツ協会をやっていて、いい選手はいるのですけれども、実は地域の子って県外に出てしまう、市外に出てしまうので、離れても地元愛を忘れないでほしいというのと、みんなに周知していききたいというので表彰まで至らない、全国優勝とかに至らない子たちに指定強化という形にしたらかなり注目してくれたり、県外に出ても「活躍しています」というのを報告してくれたりして、広報紙に載せて。特にスキーとか、静岡県って雪がないので、例えば三木つばきさんもそうなのですけども、そういったところでも活躍する選手がいるのだなというのは子どもたちとか地域の方の活力になると思うので、地元のこれからの選手の広報も課題として加筆していただきたいなと思います、いかがでしょうか。

方向性が3.5なのですけども、どうですか。今のを聞くと3にしますか。今のを聞いていると4というよりも3かなという感じはするのですけれども、いかがでしょうか。方向性は3でいいですかね。では、方向性3でお願いいたします。

ほかによろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、1-3 になります。「運動・スポーツに関する情報の効果的な発信」というところになります。ここが全体的に低いです。

読み上げます。(1)の「現在の達成状況」への評価です。指標②のアンケート対象が足立区主催のスポーツイベント参加者に限定的であるため、施策1-3が必ずしも目標を達成したとは評価できない。ホームページのアクセス数については、スポーツカーニバルなどのイベント関連は増加したが、そのほかのホームページやSNSの検証も実施し、その結果を記載する必要がある。また、他分野連携事業のさらなる実施回数増加が期待されており、文化・読書・スポーツの連携が足立区の魅力向上と全ての分野への相乗効果につながると考えられるとなっています。

(2)の「今度の方向性」への評価です。情報発信では、年齢層に応じた周知方法の工夫や検索システム導入による利便性の向上が求められる。スポーツを入り口としない情報発信の具体的な

うな考え方のものがあってというのは何か見えにくいというか、正直言って。ごめんなさい。施策から少し話がずれてしまっているかもしれないですけども、どこまで評価をしていいのか、どこまで方向性を言っているのかというのが、正直言ってよく分かりにくいというのが書いていて悩んでいました。

■中村委員

私も伊藤委員のおっしゃるとおり、この施策の表紙の下に個別具体的な事業があって、これの積み重ねがここに来ているのだという認識なのですけども、どうもこことこの関係性があまりつかめていないというか、これがざっくりすぎて、この事業の相対的な成果として、このシートというか評価があるということなのでしょうけれども、それを書く上でこれがあまり参考にならないというか、ここに原因分析とか課題とか今後の方向性とか、そういうのを全部入れ込んでもらわないと、こっちに飛んでこないのですよね。

ですから、すごく私も評価をする中で悩んだのが、これを全部見ていったのですけれども、見ていったことがこっちにつながっているのかというと、そうでもないような気もするし、「いやいや、こっちを見るのではなくて、ここを評価してください」と言われていたのですけれども、これを評価するには、こっちを見なければいけないのですよね。こっちをもっと充実させて、これの集大成がここというふうなものにつくり変えていかないと非常にこの評価が難しいです。

また言って申し訳ないのですけれども、区民評価のほうはすごく分かりやすいのです。シンプルなのです。事業単体の中がきちんとまとめられていて、この一つの事業の中で問題点とか課題だとか今後どうしたらいいのかというのが入っているのですね。たたずまいと言ったのですけれども、そういった立てつけにしてもらって、次回の評価に結びつけていくというほうがいいのかなと思いますけれども。

■溝口部会長

今の伊藤委員と中村委員のおっしゃったことを次回に向けて今後の方針の中に入れていただいて、箇条書きとかでひもづけして評価ができるような、リンクができるような評価表にしていたらと審査がしやすいというところも次回の課題にさせていただきたいと思いますが。

■伊藤委員

僕は今回2回目なのですけれども、1回目しか出ていない中で今回この評価シートを書けと言われたときに、ほかの職員に同じことを書かせたときに、どういうふうに感じるのかなと思うのですよ。立ち位置的には書きますよ。書きますけれども、自分たちが評価シートを書いてくださいとお願いするベースの中に、僕は1回しか出ていない中で資料がぼんと来て、各職員の方々に「この資料を見て評価シートを書いてみて」と言われたときに、多分「何を書いているんですか」という答えが出てくるのではないのかなと思うのですよね。せつかく文化・読書・スポーツという3分野が連携してやっていこうという中で、今回はスポーツの部門として切り分けてここがあると、方向性がよく分からないというか、皆さんが3分野の中のスポーツとして方向性を見いだそうとしている中で、我々委員にこの資料で「評価してくれ」と言われてしまうと、正直評価し切れないのが本音かなと思ってしまいます。

■中村委員

ちなみに、参加されている委員で、私は今回初めてなののですけれども、2回目ですか。

■伊藤委員

僕は初めてです。前回やったじゃないですか。あれに参加したのが1回目。僕はこの推進委員

は初めてです。

■中村委員

田中さんは？

■田中委員

2月に発足の会があって、それに初めて参加して、この間は1時間ぐらいで抜けさせていただいたので、この事業は、本当はもっと細かくどんな事業をしているのだろうというのを。

■溝口部会長

指標がもうちょっと出ていないと分かりにくい、評価しづらいという。

■中村委員

分析がもう少しないと。

■溝口部会長

数値化されたものが、もっと出てきたりとか。

■中村委員

いいことはあまり書かなくてもいい。課題の原因分析とか、そのところをきちんと書いていただくと分かりやすい。その課題を基にして令和7年度の取組予定と出てくるわけですから、そのところをもう少し変えたほうがいいかなと思いますけれどもね。

■伊藤委員

逆に役所側としては、本当はどうしたいという大本はあるのですか。こういうふうな方向性に行きたいのだけれども、その中で今こういうふうなことをしていて、この評価の中で新しいご意見を頂きながら、その形に向かっていきたいという考えが役所にあるのかどうかという。ただ、この資料を見ても、ぼんとぶん投げられて「評価してください。よりよくしてください」というスタンスなのか。皆さんの中の大まかな目標値というか、3分野をこういうふうな連携をしていけばこういうふうになるのだけれども、我々だけのあれではなく、皆さんの意見を聞きながら、それをすり合わせをしながらそこに近づけたいみたいな大まかなものを皆さんの中で持っているのか持っていないのかによっては、我々がどんなに評価したって進むべき道は正直分らないという。

■中村委員

逆に、今まで評価されてきていて、評価する側からの問題点だとか課題だとか、私たちが今言ったような話というのは出てこなかったのですか。

逆に言うと、問題点が出てこないということは、それなりの評価しかしていないということではないのかなと思います。

■伊藤委員

個人的なことと言えば、お恥ずかしい話、何となく雰囲気書いていますよ、この評価シート。全部がよく分かっていないというか。何となくは分かりますよ。何となく方向性は分かっていますが、これでいいのかなという。皆さんが求めているものがこれでいいのかなと思いながら、正直言って今回記入していました。ずれているんじゃないのか。皆さんが思っていることと俺が書いてることがずれているのではないかなという疑問を持ちながら書いていた。

■中村委員

私もずれているかもしれないと思いながら書いていました。

■溝口部会長

私も同じ意見を。打合せの前にこれを読んで、自分はずれているかなと思って、みんな思っていることは一緒だったのだなというのはすごく感じていて、それがこの数値に……。特に低いところ、低いというか 3 で十分及第点とは思いますが、もっと実はやりようによっては上がる可能性も、評価の指標自体がすごく不明確というところが、もうちょっとこのところをどういうふうな、ひもづけできるような、リンクできるような評価をするということも、今後の方向性の中に、評価の仕方をもっと具体的な項目を立てていただいた上の評価があると次にもつながると思うので、ぜひその点も今後の方向性のところには入れていただきたいなと思ったのですが、いかがでしょうか。

これはちょっと進め方になってきてしまうので、この問題ではないので、施策とはまたちょっと違う。全体を通してですね。その点も方針で検討していただきたいなと思います。

ほかによろしいでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご意見を頂きましたので、ちょっとご説明させていただければと思います。

まず、おわび申し上げます。今回 2 回の会議ということで資料だけ大量にお渡しをして、具体的な評価の手順等を十分にご説明できていなかったというところをおわび申し上げます。

あとは評価のシートそのものの自体が、今のご指摘を踏まえますと、いろいろなシートをお渡しいたしましたけれども、そこに書いてあるコメントからすると、なかなか評価がしづらい。何を評価すればいいかわからないとか、実際の事業の効果とか成果がわかりづらい記載になっていたというのは、ご指摘を踏まえて今後改善をさせていただきたいと思います。

私、この担当を長くやらせていただいておりますが、正直、委員の皆さんに甘えてしまっていたなというところを思いまして、この評価が始まったときには、中村委員も計画策定に携わっていただいていたけれども、計画の策定から携わっていただいた方々が、その後評価の委員も継続して務めていただいていたという経緯があって、皆さんが事業の前提というか、ベースの知識がある中で、このシートをつくってきましてとところがありました。

■中村委員

それは専門家だけでしょう。区民は入っていないですか。私は入っていませんでした。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

■中村委員

区民が入っていれば、多分もっと違った目で。自信を持って、有識者というか経験者は。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

今回、それに加えて、こちらのスポーツ部会が新しい計画をつくるということで、メンバーも新しい皆さんに替わってしまった。栢山委員以外、皆様新しくなりました中で、評価方法のご説明が不十分であったなということで大変反省しております。ですので、我々はずっとこれをしてきていただいている皆様の前提で進めてしまったところがありましたので、大変申し訳ございませんでした。

あと、そもそも評価の仕組みについても、今のご意見を受けまして、まさにそのとおりだなと思うところもございますので、次回の計画、新しい計画になるとときには、少しシートのつくりですとか、そもそも委員の皆様はどういったポイントでご意見を頂きたいかというところが明らかになるようにしていきたいと思います。

評価委員会のメンバーについて、公募の委員の皆様を入れさせていただくかというのはもうちょっと大きな課題になりますので、また庁内全体で検討させていただきたいと思います。大変申し訳ありません。ご指摘どうもありがとうございます。

■溝口部会長

ご意見どうもありがとうございます。

■中村委員

ちょっといいですか。区民評価委員会の採点の方法とかありますので、それも参考にさせていただきたいなということと、評価シートも、区民評価委員会というか、重点プロジェクトとか使っていますから、そういうのも若干参考にしながらつくったほうが分かりやすいと思います。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

実はお恥ずかしながら、この評価の仕組みをつくる時には、もちろん庁内の評価の仕組みとあまりかけ離れてはいけないだろうということで、区民評価のシートなども、様式は違いますが、少し項目なんかは参考にさせていただいているところがあります。成果指標とか担当部評価とか庁内評価ですとか、この項目はそうなのですけれども、恐らく分析の書き方とかが皆様が分かりやすいような書き方になっていなくて、どこを評価していいかが分からなかったところもあるかと思うので、その辺りのつくり方のところから庁内の評価に少し合わせる形で修正させていただきたいと思います。申し訳ありませんでした。

■中村委員

ぜひ、よろしくお願いいたします。

■溝口部会長

ありがとうございます。引き続き課題のほうをよろしくお願いいたします。

続きまして、施策2-1に進みたいと思います。資料をご覧ください。評価ですけれども、ここは全体的に高い評価、4.0となっております。

(1)の「現在の達成状況」への評価です。「パークで筋トレ」は、実施会場の増設や実施回数の増加が参加者の増加に寄与しており、身近な公園での運動機会を確保している点は高く評価できる。また、スポーツ施設に集約せず、公園や学校といった身近な施設を対象にスポーツ機会を提供する「ちょいスポ」の取組も成果の一つであり、すばらしい施策である。指標①の実績値は前年を下回ったものの、「身近な場所での場所・スポーツ」は定着しつつあると判断される。一方で、高齢者は近隣に施設がないと運動に取り組みにくい現状があり、今後は近隣の場所や民間施設との一層の連携が必要である。また、身近な場所のスポーツジムも指標に含まれているため、民間スポーツジムとの連携も検討するべきである。指標②については、運動・スポーツのできる公園整備の所管課であるパークイノベーション推進課とスポーツ振興課との連携が不明瞭であり、課題である。さらに個別事業の「ウォーキングチャレンジ」では、参加者の把握において、継続参加者と新規参加者を区別して把握していくことが求められる。

(2)「今後の方向性」への評価。高齢者向けに近隣や民間施設との連携を継続し、運動機会を確保する必要がある。老朽化するスポーツ施設の安全確保と保守管理も喫緊の課題である。運動推進には、施設に頼らない身近な場の提供が重要である。指標②では「公園」を軸に、パークイノベーション推進課と連携した公園散策イベントなど具体的な取組を検討するべきである。自宅での運動をスマホ配信するなどほか、文化・読書分野と連携した協創推進事業の推進を今後の方向性に加えることも期待される。

(3) の「助言の反映状況」への評価は、外部評価を実施していないため空欄となります。

ここは「パークで筋トレ」の評価も高いというところで、皆様の記述もたくさん書いていただいている評価が高いところだと思います。区内の評価でも達成度が非常に高いところではありませんけれども、中村委員からご意見を賜りたいと思います。お願いします。

■中村委員

指標②で「よく行く、行きたい公園」がある区民の割合と、ちょっとこの辺が指標の意味がいまいちですけれども、よく行くまたは行きたい公園がある、そうすると「パークで筋トレ」と直に結びついていくのですか。具体的な事業を見ていると、私も書いたのですけれども、パークイノベーション推進課がやっている事業もあって、そことどう連携しているのかなというのがあるのですね。私、たまたま昨年まで緑の協力員をやっておりまして、パークイノベーション推進課と 2 年間お付き合いをさせてもらったのですけれども、その中で、この公園で運動もできるのではないのかなとか、あるいは「パークで筋トレ」で使っている公園に、例えば樹木説明会のイベントのチラシを配ったらどうなのかとか、そういった庁内連携をちょっと考えていて、実際にチラシを配ったりしたこともあるのですね。そうすると効果が確かにありました。ということで、公園の問題とスポーツの問題と直に結びつくのかどうかというのはあるのですけれども、ごめんなさい、指標②の意味というのは、なぜこういうものが出てきたのかという背景とかはありますか。なぜこの「よく行く、または行きたい公園がある」という指標にしたのかという背景。

■溝口部会長

いかがでしょうか、事務局。この設問の意味というか背景が。お願いします。

■中村委員

そこに行って運動するというのもあるのでしょうかけれども、これを指標にしたという背景が、いま一つ私は分からなかったのですけれども。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

事務局、大久保です。私も計画をつくったときのことは、記憶がうろ覚えのところもあるので、こちらの指標にした理由というのは、基本的には既存の指標で組ませていただいたというところがありますので、「パークで筋トレ」に特化した、それだけの指標というのがなかったというところで、一方で、このためだけにアンケート調査するというのは難しいところから、世論調査で一番これに近そうな項目というのを選ばせていただいて、これになったという形だったように記憶しております。

ただ、若干乖離があるというのは、中村委員のご指摘のとおりかと思いますので、「パークで筋トレ」に行ったら「いい」と思った人が上がると、この区民の割合が増えるかという因果関係が 100%かというのと、なかなか申し上げづらいところはあるかと思います。ただ、世論調査の中で一番近い数字ということで設定をさせていただいたように記憶しております。

■中村委員

この指標だけでいくと、まさに「パークで筋トレ」しかないのかなと思ってしまうのですよね。逆にほかに何があるのだろうと。「ウォーキングチャレンジ」もあるのでしょうけれども。そうすると、この大きなシートの 1 枚が「パークで筋トレ」の事業だけになってしまうというおそれもなきにしもあらずなので、何かもう少しよい指標とか、公園をベースにした取組ができるような仕組みづくりとか、それをひっくるめて評価をするというような形にできないものなのかなと思っているのですね。皆さん、いかがでしょうか。

■溝口会長

どうでしょうか。どうぞ、田中委員。

■田中委員

私は、行きたい公園があるというのは、お散歩も含めて高齢者が動きやすいとか、そういう意味で取っているのかなと勝手な解釈はさせていただいたのですけれども。高齢になったりとか、わざわざ運動をしに行くというのは時間がかかることなので、そういう捉え方はしたのですけれども、確かにそう言われると、自分の中で勝手な解釈でそういう判断はしました。

■中村委員

高齢の方が行きたい公園があるというのは、何か施策があってそういうふうになればいいのですけれども、その施策の裏づけが指標にぼんと出てきてしまうと、これって「パークで筋トレ」しかないと思ってしまう。

■溝口部会長

方向性だと、施設とか聞くと場所ですよ。スポーツ施設だったり。そこら辺が逆に指標でもう一つあったほうが、バランスがいいかなと。「パークで筋トレ」ありきの設定になっていると言われてしまうと、行きたい施設があるとか、スポーツ施設があるというところがあると。公園って、別にスポーツ広場ではないのですものね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

補足させていただいてよろしいでしょうか。失礼いたしました。

先ほど「パークで筋トレ」ということでお話しもしてしまいましたが、この施策2-1で言いますと、運動・スポーツのできる公園の整備というのも一つ事業として入っておりますので、そういったところで、公園というところに入れさせていただいていたかと思います。あとは田中委員がおっしゃったようにウォーキングとか、近場での身近な運動というところで、ポイントなのが公園というところもあるかと思いますが、その辺りで設定をしているところかと思います。

ただ、いずれにしても、その事業と成果が一致するかというところで言うと、指標を一つ見直す、検討の余地はあるのかなと認識しております。

■溝口部会長

ありがとうございます。どうでしょう、課題でその点も今後の方向性……

■伊藤委員

今後の参考までに教えてもらいたいのですけれども、今の「よく行く公園がある」ということの令和6年度実績値50.2%、達成率96%というのは、何の実績値が50.2%で、何の目標値が96%なのか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

よろしいでしょうか。大久保でございます。今の伊藤委員のご質問ですけれども、50.2%というのが実際の世論調査の回答の割合。

■伊藤委員

要は世論調査を100人やった人に対して、「よく行く公園がある」と答えた方が……。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

答えた方が50%になります。

■伊藤委員

そのうちの？

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

その 96%は何かというご質問ですけれども、50.2%の 2 つ右をご覧くださいまして、R8 のところに 52.3 というのが入っていますが、この運動・スポーツ計画では、令和 8 年度に世論調査で回答する方が 52%になるのを目標値にしていると。ですので、52 に対して今 50 まで行っているの、その達成率が 96%という見方となっております。

■伊藤委員

そういうことね。世論調査を答えてもらうのが 52.3%を目標にしているから、それに対して。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

それに近いところまで来ているという状況。平成 30 年度は 43%だったのですが、それが上がってきていると。ただ……

■伊藤委員

そのうち 50%が「よく行く、または行きたい公園がある」と答えていますよね。その 50%の人のうち、「パークで筋トレ」が令和 6 年は 2 か所増やして 40 か所あるということですよ。この 50%答えた人たちのどれぐらいの割合が、この「パークで筋トレ」の公園に行っているという数字は分からない？

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

そちらまでは申し訳ございません。例えば世論調査で答えていただく 50%の方に「あなたは「パークで筋トレ」に行っていますか」ということを聞かないと分析はできないと思いますので、そういう立てつけにはなっていないかと思います。

■伊藤委員

そうなってくると、公園に行っている人たちが 50%いるけれども、その公園が「パークで筋トレ」の施設があるかどうかというのは分からないということですよ。そういうことですよ。

■中村委員

運動しているかどうか分からない。ただ、ふらっと散歩。

■伊藤委員

そうなってくると、「担当部における評価」の中の「会場を 2 か所増やし 40 か所で実施している。身近で気軽に参加できる場が確保された」というこの評価と、このアンケートは関係ないということですよ。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

完全にイコールではないということにはなるかと思います。

■伊藤委員

逆にその数字が欲しいんじゃないの？ 本来であつたら。「パークで筋トレ」に行っている人たち……、そんな目で見ないでください。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

いえいえ、とんでもないです。おっしゃるとおりです。

■伊藤委員

素朴な疑問なのよ。いろいろ評価してくれとか数字を出されて、考えていても何を聞かれているのか、書いているときにどうしても分からなくて。この公園に行くのが、高齢者の方が行っているのか、子ども連れの子が行っているのか、青年たちが行っているのかのパーセンテージも全然違うわけだから。「パークで筋トレ」はどっちかというと高齢者の方々がやっていただい

るのだから、これだけの数の公園に行く人がいますよ、50%ぐらいいますと。そのうちさらに半分ぐらいが「パークで筋トレ」をやっていますよ。さっきの情報発信を増やしたりとか、「パークで筋トレ」の場所を増やしたりとかして、もう少し利用している方々を増やしていきましょうねという方向性なら分かるのですけれども、「楽しめる場の提供」という施策の柱の中で、楽しめる場所の提供をこっちが一方的に増やせばいいのかということと、スポーツを増やす、運動する場所を増やしていくという方向性とどうリンクさせていくのかというのが分からないと、「アンケートに答えるのが 52.3%目指しています。そのうち 96%が達成されています」と言われても、私たちが評価のしようがないというのが本音というか、「そうですか」しか分からないというか。

■中村委員

指標を無理やりこじつけたみたい。そういうことなのですよ。しようがないと言えば、しようがないのでしょうか。

■伊藤委員

しようがないのは分かるのですよ。ある程度つくっていかねばいけないという皆さんの苦しみも分かるのだけれども、場面をやるのがどうもメインになってしまって、本当にこの施策に対して何をすべきなのか、何を目指してどうしたいのかというところが、ちょっとずれてきているような成果指標になっていて、それで今度「2 か所増やして 40 か所実施しています」と言われても、2 か所増やしたところで「パークで筋トレ」をした人は2 か所分増えているのかとか、そこら辺の地域の方々が行くようになっていますよというなら分かるのだけれども。これで増えているといったら、パークイノベーション課なのか、道路公園課なのか分からないのだけれども、もっと「パークで筋トレ」の場所を増やせば、このところが増えていくよねという議論に進んでいくと思うのだけれども、道路公園課もいなければ、パークイノベーションはいるのかな、いないでしょう。そうなってくると、あまりにも施策だけが独り歩きしてしまっていて、皆さんの中でこの委員会だけが独り歩きしているような雰囲気を感じてしまうというか。

■中村委員

個別事業の 5 で運動・スポーツのできる公園の整備とあるじゃないですか、事業が。これはパークイノベーション推進課の管轄なのですからけれども、公園の魅力を伝える SNS 発信数というのがあって、逆にこういうところとスポーツ振興課が連携をして、例えば公園で筋トレをやりますよ、連携をしながらやっていった成果が増えましたとか、参加者が増えましたというのが、この連携の事業なのかなと思うのですけれども、ある意味パークイノベーション推進課にこの 2 つの事業は丸投げしてしまっている形で、それって本当に連携をしてスポーツが振興されているのかどうかというのがよく分からないのですけれども。事業を立てつけて 2 つ入れるのはいいのですけれども、この事業を所管課のスポーツ振興課がどうフォローしながら、行きやすい公園をつくるとか、行きたい公園をつくるためにパークイノベーション推進課と連携をして、その結果増えましたとか、そういうのが目に見える形での成果ではないかと思うのですけれども。

■溝口部会長

ありがとうございます。今言ったところもかなり指標のところ、私自身もパークだけではなくて、むしろ東京都ってすごいパークなんだなと。地方にいと施設だったり、地域総合クラブもここに書いてあるのですけれども、身近なところというのはソフトの部分もあったりするので、ちょっと偏っている感じは委員のご指摘のとおりあるので、いろいろな多様性の中でスポーツを身近に感じる場所ってあると思うのですよ。むしろそこがスポーツ振興課の真骨頂だと思うので

すよね。パークだけに限らない多様性ある利用の仕方、そこを次回、指標を検討していただくということを加筆していただきたいなと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それも課題でよろしくお願いします。

かなりここは熱く議論してしまったので、時間が。足立区の特徴でもあると思うので、すごく発展的ないいご意見だったと思います。ありがとうございます。

続きまして、3・1になります。ここがちょっとまた低いところです。全体評価としては3なのですが、達成度3、方向性3で、ぎりぎり3という評価になっています。

指標①については、前年度の実績を下回ってしまったということです。令和8年度目標値に対する達成度が62.8%に留まっていることが確認されています。一方で、スポーツ協会加盟団体への活動支援が行われ、これによる参加者数の増加が評価できる点です。事業内容に関して、ミーティングや研修が情報交換及び連携強化の場として重要であることは理解されているものの、これらの連携強化が具体的にどのような成果を生み出したのか、また運動・スポーツを支える人材の育成にどのように寄与したのかについて、さらなる詳細な実績や検討内容の明示が必要であるということです。

2番目です。「今後の方向性」への評価です。「足立区パラスポーツ推進協議会」のネーミングが「誰もが」という趣旨と合致しないため、インクルーシブな表現への検討が望ましい。また、パラスポーツ関連ミーティングは、課題が多く細分化が必要であり、委託事業の費用対効果分析による事業の改廃検討も求められている。加えて、民間のスポーツジムとの連携を検討することで、区民全体の運動・スポーツ機会を拡充するべきである。

「助言の反映状況」への評価については、外部評価を実施していないため空欄としています。

以上が評価となります。非常に委員の皆様の評価も厳しいところだったかなと。オール3ですね。パラのところの課題というところもあると思いますが、田中委員、この点についてご意見を頂けますでしょうか。

■田中委員

やはり支えるというところで言ったら、ほかのところも全部そうなのですから、コロナ禍がありましたので、かなりいろいろなものが停滞している中で、ボランティアさんとかも高齢化していく中で、新しい人材を募集するというのはなかなか難しいことだろうと感じております。難しい中で、どうしたらボランティアさんとか支える人、人の働き方も変わってきている中で、これはすごく難しく大変だろうなという感じで捉えたので。

パラスポーツについては、足立区は結構いろいろなことをしてくださっているのですけれども、すごく大きい課題なので、パラでも本当にいろいろな人がいる。すごい専門の人と、本当にちょっと障がいがあって取り組む、小さいところから始めていかないと難しいのかなというのは感じました。

■溝口部会長

ありがとうございます。高齢化だったり、都市化というのが、足立区も下町文化というのが、だんだん外国人も増えてきたり、いろいろな意味で日本全体の問題だと思います。支える地域の力がすごく縮小していく中で、スポーツというのは支える人がいないとなかなか達成できない。特にパラスポーツの部分はそこが弱者に一番来るところでもあります。新規性というののもなかなか見えていないかなというところで、今後の方向性は、もうちょっと課題があるかなと思っております。

どうでしょうか。今後の方向性のところは、パラスポーツを中心にですけれども、自治会のところとかちょっと加筆して、民間を入れていけばchocoZAPとどう違うのかというのがあるのですけれども、足立区ならではの地域の課題というところも踏まえて、支えていく人材の育成というのが、もうちょっと具体が見えるといいかなとは思いましたけれども。

■伊藤委員

参考までにちょっと教えてもらいたいのが、指標の定義の中で、スポーツ協会、スポーツ推進委員、地域クラブ、関連団体ほか、どういった事業が……。例えばこれがそれに当たる事業ですよというのを一つ二つ教えてもらえると。この3つのほか、民間企業などとの連携により実施した事業の実施って、このイベントがそれですよと教えてもらえると。それがそれなんだと知りたいなというか。

■溝口部会長

プロのサッカーの連携とかでしたよね。

■伊藤委員

プロサッカーを見に行くとかも、それに当たるとか。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

そうですね。東京ヴェルディとか、あとはジャイアンツさんもありますし。

■伊藤委員

それが、そういう事業ということですね。

■中村委員

これ、3-1 ですよ。3-1 だとスポーツ協会の活動支援、スポーツ推進委員の活動支援、地域スポーツミーティングの展開、総合型地域クラブとの連携。この4事業が3-1の個別事業になっていますね。具体的なものが、ここには出てこないですけれども。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

民間というか、あとは団体もありますよね。バスケットボールの連盟とか、フットサルもありますし。

■伊藤委員

それはスポーツ協会に属していないんだ。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

はい。それとはまた別の団体として連携はしていますね。

■伊藤委員

大学のバスケットとか、ああいうやつですか。

■事務局（スポーツ振興課振興係長）

そうです。社会人もいますし。

■田中委員

支える人材といえば、足立区には大学がたくさん誘致されているので、学生ボランティアさんをうまく活用したり、大学特化の連携もしていけば違うのかなとは思いますが。

■溝口部会長

私は世田谷区に所属しているのですけれども、世田谷区の場合、学生の連携は今地域部活なのです。足立区さんはちょっと違う方向性で地域部活をやっているのです。なかなかその辺も地域の特色というか、若い世代を取り入れたい、大学生となるとまたちょっと。確かにその部分は

足立区さんは見えづらいところでもあるのですが、なかなか方向性というか、逆にプロの民間の活用とかそういうところをやっていて、グランドデザインがちょっと弱いかなという部分だと思います。ここの支えるところ、もうちょっとその点も踏まえて、支える組織って、具体的にスポーツ推進委員と体協さんだけでいいのかというところをもうちょっと掘り起こしで、例えばスポーツボランティアというのはあるのですかね。スポーツボランティア組織みたいなところをもうちょっと拡充していくというところとか、そういった今後の方向性ですかね。民間プラス草の根の支える組織みたいなものの育成が必要になってくるかなと。

■伊藤委員

スポーツ推進委員って各学校に1人しかいないんだっけ？

■事務局（スポーツ振興課長）

いいえ。学校開放で各学校1人割り当てているのですけれども、人数でいうと80人ちょっといて。ボランティアでいうと、パラスポーツはこの後出てくる初級パラ講習を受けてくださった方を登録して、ボランティアとしてパラ関係は活躍していただいているというのはいっぱいあるのと、学生さんは本当に今年、去年ぐらいから始めているのですけれども、パラスポーツ協議会とかでつながりのある大学の先生の所属しているゼミの子たちがボランティアで協力していただいたりみたいなのは、ちょっとずつ動き始めているというのが現状ですね。

■溝口部会長

学校関連とかで掘り起こしをしていくというところも課題で加筆していただきたいなと思います。若い人の層とかも必要だと思いますので。

では、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、3-2になります。最後になりますかね。3-2を見てください。こちらは全体評価4、達成度4、方向性が3となっております。

読み上げます。（1）「現在の達成状況」への評価です。スポーツを支える人材向けの研修は多く開催され、参加も増加している点は高く評価できる。特に、成果指標②であるスポーツボランティアの地域イベントの協力人数が、令和5年度実績の487人から584人へと約20%増加したことは、評価に値する進捗である。しかしながら、この増加はあったものの令和8年度の目標値820人には達しておらず、コロナ禍以降、活動する人材が固定化している現状が大きな課題であると認識されている。このため、延べ人数での評価に加え、新規協力者の具体的な把握とボランティア活動への勧誘活動、そしてそのための対策事項が強く求められている。また、指導員登録や研修回数が充実している一方で、現場でその知識や経験を十分に発揮できる活動の場が不足しており、依頼件数が低調である点で懸念材料として挙げられている。これはほかの地域でも共通して見られる課題であるとの指摘もあり、育成後の活躍の場創出が今後の重要課題であるということです。

（2）「今後の方向性」への評価です。スポーツを支える人材育成において、専門性の高低に応じた募集・研修の実施が必要である。また、近隣大学との連携による学生ボランティアの活用も検討すべきである。新規ボランティアの確保と継続的な研修が重要であり、研修実績は各グループ別に明確に把握することが求められている。加えて、育成された人材が活躍できるよう、活動の場の情報発信を強化し、足立区ならではの文化・読書と連携したイベントの増加が期待されるということになります。

(3) の「助言の反映状況」への評価は、外部評価していないので、これも同じく空欄となります。

先ほどの学生ボランティアのところも、ここでかなり記述が厚く書かれているところです。方向性が低いということですが、結構方向性が見えてきているかなという点はあるのですけれども、この点において、伊藤委員、ご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

■伊藤委員

達成度も方向性もこれでいいと思うのですけれども、指標②のボランティアや障がい者スポーツボランティアの延べ人数が 100 人増えたということは、結構急激に増えたのだと思うけれども、これに関しては皆さんがどういうふうな評価というか。よく読んでいるのですけれども、逆に何で 100 人増えたという、こういうことをしたから増えたのではないかというのは皆さんの中でお持ちなのですか、逆に言うと。行政のほうでは。それがあれば、1 つ前の指標につながっていくような大きなポイントなのではないのかなという気がしますけれども。コロナが明けたから 100 人が増えたというのか、何かイベントをしたから 100 人増えたというのか。その増えた要因がある程度分かってくるのであれば、その前の指標の関わる人たちも少し増えていくのかなという気がするのですけれども。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

このところは分析方法を記載できておりませんでしたので、ご意見を踏まえてもう一度確認させていただきます。何かこちらに書けるような内容がございましたら追加をさせていただければと思います。

■伊藤委員

申し訳ございません。令和 5 年も結構コロナが落ち着いてきている中で、令和 6 年が 100 人増えているというのは結構大きなポイントな気がするので、ここに何かヒントがあるのかなという気はしますけれども。

■中村委員

これって延べ人数と新しく加わった方々というのを分けるということとはできないんですかね。そうすると新しい方が増えて支える人材になっていくんだというふうに見えますし、延べでやってしまうと、開催回数の問題とか、特別なイベントをやりましたとか、そういったところに影響を受けますので、ベーシックなところで新しい方々が増えてきたのだという確証が持てるような指標を取っていただくということが必要なのかなとは思いますが。

■伊藤委員

逆に皆さんでそういう会話にならないんですか。何で 100 人増えたのだらうという。

■溝口部会長

研修が 525 人と大幅に増えているということは、逆にこの辺の数字というところも新規というか。

■伊藤委員

研修が増えたから増えたのか、イベントが増えたから増えたのかということですね。その要因が分かれば、逆に言えば、研修なりイベントを増やせばもっともって増えていって、その裾野が広がってくるチャンスがあるのかなとは思いますが。達成度とか方向性に関しては皆さんがおっしゃっていることはごもっともなのかなとは思いますが、この 100 人の要因分析はしっかり皆さんの中でしたほうがいいんじゃないのかなという気はしますけれども。

■中村委員

例えば研修については、スポーツ協会、スポーツ推進委員会、「パークで筋トレ」講師、その他スポーツ指導員とありますけれども、内訳って分かっているわけですね。そうすると、どここの分母が増えたとか、そこからまた見えてくるものもあるのかなと思うのですけれども。例えば「パークで筋トレ」だと、会場を 2 会場増やしていますよね。そうすると講師も増えるわけですから、そういったこともあるだろうし、全体の研修ではなくて、細分化したところで具体的にどの講師が増えたのという、そこもチェックしていただいたほうが。

■溝口部会長

よろしいですか。今後の方向性で新規が増えているところをまた拡充して、その人たちがほかのイベントとか、横断的にいろいろ活躍する場が増えていくような、そんな方向性を加筆していただけるとありがたいです。

評価 4 と達成度 4、方向性 3 はよろしいでしょうか。では、この評価点でお願いしたいと思います。ありがとうございます。

以上が全ての施策になりますけれども、まだまだ議論が足りない部分もあるかと思いますが、施策 1-1 から施策 3-2 まで 6 施策について意見交換をさせていただきました。今までご意見頂きましてありがとうございます。

事務局から、これらの意見に対しまして何か補足説明する部分がありましたら、よろしくお願いいたします。

■事務局（スポーツ振興課長）

多々至らぬ点があり、申し訳ございませんでした。本日議論いただきました内容を改めて最終的に調整させていただきまして、加筆等させていただきまして、皆様に共有・ご確認いただければと思っております。その上で次回の全体会、3 回目の全体会で、溝口部会長よりこちらの部会の評価として他の部会と共有していくという流れでお願いできればと思っております。

以上でございます。

■溝口部会長

ありがとうございました。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

補足よろしいでしょうか。申し訳ありません。

2 点ございまして、1 点が、伊藤委員から先ほど区としてどういう方向性かというところをご指摘いただきましたので、我々といたしましては、今回の施策シートのところに担当部の方向性ですとか、庁内検討委員会の方向性というのは書かせていただきましたので、一旦そこが区の方向性ということにはなるのですけれども、例えばそういった方向性を判断するに当たっての指標ですとか、数値、分析が不十分だったというご指摘かと認識しておりますので、その点は改善をさせていただきたいと思います。

記載のところで中村委員から冒頭でご指摘があったとおり、委員の皆様のご意見がどういった形で集約されているのか分かりづらいというところが、例えばどの方のご意見がどの部分に入っているのかというのが分かりづらかった部分があるかと思っておりますので、ちょっと書き方も少し整理させていただければと思います。大変申し訳ございませんでした。

■溝口部会長

ありがとうございます。

■中村委員

1 点だけよろしいでしょうか。「現在の達成状況」に書かれている評価で、例えば「その他のホームページや SNS の検証も実施し、その結果を記載する必要がある」と書かれていますけれども、そういう項目は「今後の方向性」の中に入れ込んでいただいて、それを具体的な項目として書いていただきたいなど。今お話しただけではなくて、いろいろなところにありますから、「現在の達成状況」の中で書いたことについては、方向性の中にも入れ込んで、それを具体化してもらうということが必要だと思いますので、そこはよろしくお願いします。

■溝口部会長

よろしいでしょうか。ほかのご意見は大丈夫でしょうか。ありがとうございました。

伊藤委員が退室されるということで、ご意見ありがとうございました。

■伊藤委員

申し訳ありません、ちょっと予定がありまして。さんざん好き勝手言って帰るのも申し訳ないのですが、皆さんが頑張っていることは重々分かっております。あまり頭がよくないので分かりやすい資料をつくっていただきたいなど。すみません、お先に失礼します。

■溝口部会長

どうもありがとうございました。すみません。3 人となりましたけれども、もう少しお付き合いいただければと思います。

部会からの評価は、記述だけではなくて、対面で議論していただいたことで私もよく分かりましたので、皆様のご意見を踏まえた上で最終調整をさせていただいて、第 3 回の全体会で私からほかの部会へ共有させていただきたいと思います。

評価については以上とさせていただきます。

3 運動・スポーツ分野の区民アンケート調査票について

■溝口部会長

続きまして、項番 3 の「運動・スポーツ分野のアンケート調査票について」、後半やっていきたいと思います。もう少しお力添えをよろしくお願いいたします。

それでは、事務局、ご説明をお願いいたします。

■事務局（スポーツ振興課長）

着座にて失礼いたします。アンケート項目について事務局よりご説明させていただきます。

大きく 2 つ、大人向けと子ども向けとありまして、新旧対照表と資料 5、6 がアンケートの実際のものになっております。新旧対照表とアンケート、共に青くなっている部分がスポーツに関する部分でございます。何点か追加をさせていただいておりますので、そちらをご確認いただければと思うのですが、実際のものが資料 5 です、ご覧いただきながらご説明させていただきます。

追加したところだけお伝えしたいと思います。11 ページの「5.運動・スポーツについて」という部分で、説明を幾つか追加しております。

1 点目が「あなたは、健康のために意識的に身体を動かすようにしていますか」、「あなたは、どのような運動・スポーツプログラムであれば参加してみたいですか」、「運動・スポーツをする際に、どのような支援や環境があればより取り組みやすくなりますか」、「あなたは、地域で開催される運動・スポーツイベントへの参加やその運営へのボランティアとしての関心がありま

すか」というところを追加させていただいております。

12 ページ目、追加の部分ですと問 36 です。「運動・スポーツを実施して、あなたはどのように感じましたか」を追加しております。

その他変更等もございますけれども、主な追加は以上のところでございます。

また、資料 6 の子ども向けのほうも少しだけ変更等があります。こちらも追加の部分だけご説明させていただくと、同じく 11 ページ目で、問 11 のところから追加になっております。「あなたは、どこで運動・スポーツをしましたか」、問 12「運動・スポーツを実施して、あなたはどのように感じましたか」。問 10 からの流れになりますけれども、問 13 で「あなたは、どのようなときに運動・スポーツを実施したいと思いますか」という設問を追加してございます。

すみません。簡単ですが、修正点は以上でございます。

■溝口部会長

ご説明ありがとうございました。基本的に水色のところが修正箇所となっております。ここについて、加えるというのがなかなか難しいところがあるようなのですけれども、もっと聞きたいなとか、ご意見があれば、その点も踏まえて言っていただきたいと思います。

資料 5 のほうから行きましょうか。大人のほうのところで、4 ページをまず見ていただいて、コロナのところは削除になっております。続いて、11 ページのところは追加になっています。特に追加のところとか目を通していただいて、文言とか整合性はどうかというところもご意見を頂きたいと思います。続いて、12 ページもそうですね。13 ページのところも見ていただきたいと思います。

3 分ぐらい目を通していただいて、人数も少ないので、お一人ずつご意見を賜りたいと思います。今回はほかの部門のところも意見を言いたいところかもしれませんが、水色のところだけでお願いいたします。

■中村委員

すみません、よろしいでしょうか。11 ページの問 29 で「あなたは、健康のために意識的に身体を動かすようにしていますか」で、一般的に書いてあるのですけれども、例えばジムに行っていますとか……。

■溝口部会長

もっと具体的に。

■中村委員

そういうのはないのですかね。既にジムに行っていますとか、区のスポーツ施設に行っていますとか。

■溝口部会長

どうでしょうか、事務局。健康のために意識的に……、「その他」のところ書くのですかね。

■中村委員

その他に書くというイメージですか。

■溝口部会長

「その他」のところに書くということでもいいのですかね、そういう場合は。民間の施設というか、機会になっている場合。

■事務局（スポーツ振興課長）

委員がおっしゃりたいのは、より強度の高いというか、しっかりとスポーツやられている方が

書くようなところがないという。

■中村委員

「スポーツしていますか」というところで、そういう選択肢ってありましたっけ。ここだけですか、スポーツは。

■事務局（スポーツ振興課長）

そうですね。運動経験の実施の有無についてはここになります。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

中村委員のご質問は、一番大きな話として「運動・スポーツをしていますか」という質問はあるのかということによろしいでしょうか。

■中村委員

そうそう。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

12 ページの間 34 が、いわゆるスポーツ実施率ということを確認する。国ですとか東京都でも同じような数値を取っているのですけれども、1 週間でどれぐらい運動しますかとか、そういうものは入れさせていただいております。運動・スポーツの一番行動の度合いを確認する質問としては問 34 が基本にはなっております。

■溝口部会長

どのアンケートでも国として数値を出さなければいけないところだと思いますので。スポーツの現場でも、何をもってスポーツなの？ というのが、ウォーキングなのか散歩なのか、はたまた今や e スポーツという形であったり、スポーツの定義があいまいになっているというところでは難しい。

■中村委員

34、35 というのはセットみたいなイメージですかね。

■溝口部会長

セットというのは。

■事務局（スポーツ振興課長）

33 で「過去 1 年間に、運動・スポーツを実施していますか」ということで……。

■中村委員

35 はその場所、施設。

■事務局（スポーツ振興課長）

34 から 36 までを答えるということですね。

■溝口部会長

それは学校とか運動会とかは含まない。16 歳以上だから学校が入ってしまうのか。部活は入ってしまうのですよね。部活はオーケーなのですよね。高校生なんかは、部活は実施したということですよね、学校で。この調査が高校生も入っているから、高校生と言ってしまうと、高校行っていない子もいるわけなので、すごく難しいセンシティブなあれですね。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

事務局、大久保です。11 ページの間 33 が一連の質問の始まりなのですからけれども、まず「運動・スポーツを実施しましたか」というのを 1 年間で聞いて、「実施した」という方に対して、その頻度ですとか場所を聞いているのが 34、35 になっております。

溝口部会長がおっしゃった部活に関しては、問 33 の※で「学校の体育の授業、運動会は含まない」ということで、部活は特にここでは除いてはいない形です。33、34、35 辺りは、計画策定時から経年変化を取っているものになりますので、この辺りは基本の質問ということで、できればこのまま残したいというところがございます。

■中村委員

了解しました。

■溝口部会長

よろしいでしょうか。

ほかに何かご質問等ありますでしょうか。

中村委員から、何かあれば。この方向でお一人ずつ。次、田中委員に伺いたいと思います。

■中村委員

よろしいのではないのでしょうか。

■溝口部会長

いいでしょうか。ありがとうございます。

田中委員、いかがでしょうか。

■田中委員

大丈夫です。

■溝口部会長

ありがとうございます。33 のところとかのニュアンスとかセンシティブなところもあって、35 も経年変化というところもあるのですけれども、なかなか多様化する中で難しいですね。自宅というところも。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

もちろん全く変えられないというわけではございませんので。逆に申し上げますと、3 年前、6 年前から取っている選択肢で変わっていないところがありますので、溝口部会長のご知見の中で「今聞くのであれば少しこういう選択肢も」ということで、何かアドバイスがございましたら頂ければと思います。

■溝口部会長

35 のところ、さっきの公園とかもっと具体的に、自宅周辺のところってすごく広いと思うのですよ。例えば「近場で」というのは公園の方なのか、民間のジムだったりとか、その辺が見えてくると、さっきの指標とひもづいてくるのかなというのは。低所得者といったらあれなのですけれども、民間ではなくてやはり公園だよなとか。その辺のセンシティブな階層のところが、ここでスクリーニングできる可能性がありますよね。民間に行ってしまうのか、地元のスポーツ施設に行っているのか。ここの自宅周辺のところをもうちょっと、どういう人が来るのかなという階層のところが見えるのではないかと思います。選択肢は増えてしまうのですけれども。

これは幾つでもできるのですね。何個でも丸をつけられるところなので。自宅でできるという人は何をやっているんでしょう。エアロバイクとかある人。昔だと縄跳びとかですかね。フリースローがあるとか。生活様式の変化があるので、ここはもう少し細分化して聞いてもいいのかなと思います。区外・区内というところを恐らく聞きたいのでしょうかけれども、ちょっともったいないので。せっかく聞けるのであれば、特に公園での運動の機会というのを増やしたいという足立区の方針があるので、公園とか、ぶっちゃけ学校だったりという。そうすると高校生がひもづ

いたりとか。あと、スポーツ施設。走っているだけなのかも知れないのですけれども、もうちょっと2のところがいろいろあると、ほかの指標につながってこられるかなと思います。

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、子どものほうのアンケートです。こちらになります。青いところが追加となっております。11 ページですね。これも「どこでやっていますか」というところになります。スポーツのページが少ないですね。子どもだから、集中力がなかなか。しかも最後のところなので、集中力が。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

お子さんのアンケートは、大人のアンケートよりも大分質問が少なくなっております。

■溝口部会長

田中委員、いかがでしょうか。何かご質問、ご意見があれば。

■中村委員

子どもって何歳以上でしたっけ。

■溝口部会長

小5 と 中1 ですね。保護者さんも一緒に回答ですよ。これ。

■中村委員

12 ページの「今の自分に、まんぞくしていますか」と、「まんぞく」を漢字にして振り仮名を振ってもらってもいいかなと。あと「えらい」も「偉」を書いて、振り仮名な振ってもいいかなと。ほかは大体漢字で書かれている。

これはあれですよ、自己肯定感とか取るのですよね。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

衛生部の調査の質問をそのまま使わせていただいている形になります。

■田中委員

子どもでも「眠れるようになった」なんてあるのだなと思いついていたのですけれども。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

眠れるイメージですよ。

■田中委員

そうそう。子どもなんていつでも寝られるのに「眠れるようになった」。そうなんだ、今の子は大変なんだと。

■溝口部会長

よろしいでしょうか。

では、原案どおりで特段変更もなくというところで。こちらのアンケートの調査項目を承認したいと思います。ありがとうございました。ご意見がそんなには出なかったと思いますので、これで承りたいと思っております。

時間もちょっと早めなのですから、第2回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会運動・スポーツ部会はこれで終了させていただきたいと思います。ありがとうございます。

本日は現計画の評価に対する奇譚のないご意見交換ができたと思います。また、新計画のアンケートについては、従前とおりのものを加筆するかというところを先ほど私も意見を述べさせていただきましたけれども、これまでの指標が古いのではないかと、見えていなかった部分、現

状と合っていない部分が、皆様のご意見のおかげで非常に見えてきたと思います。大変有意義な議論ができたと思います。本当にありがとうございました。

それでは最後に、事務局から事務連絡をお願いいたします。

4 今後の予定

■事務局（スポーツ振興課長）

本日はどうもありがとうございました。事務連絡をさせていただきます。

まず次の開催についてです。次回、令和7年9月26日午後2時からを予定しておりますけれども、こちらは確定次第、速やかに通知を送らせていただきます。

また、今回は全体会の3回目となりまして、これまで委員の皆様に議論をいただいた内容を踏まえて最終調整した評価案、アンケート質問項目案につきまして、溝口部会長より共有をいただく予定でございます。

次に、本日の会議録につきまして、事務局にて案を作成次第、委員の皆様に送らせていただきますので、ご確認をお願いいたします。確認終了次第、区ホームページへ掲載させていただく予定です。

最後に、本日お車でお越しの方は、駐車券をご用意しておりますので、出口付近の係員にお伝えください。

事務局からの連絡事項は以上でございます。

本日はどうもありがとうございました。